

炎症性腸疾患

主として消化管に原因不明の炎症をおこす慢性疾患で潰瘍性大腸炎とクローン病があります。いずれも特定疾患治療研究事業の対象疾患であるため、医療費の公費負担助成があります。従来は治療が難しかったのですが、最近は様々な治療法が開発されつつあります。当科では患者様の生活の質の向上のためこれらの新しい治療法を積極的に取り入れています。

診断には豊富な経験が必要です（クローン病、潰瘍性大腸炎）

例えば癌の診断について考えてみましょう。病理検査により癌細胞を確認することで癌の診断をすることができます。癌の診断において病理検査は非常に重要と言えるでしょう。炎症性腸疾患ではどうでしょうか。クローン病や潰瘍性大腸炎では、病理診断だけで確定診断することはありません。患者さんの症状、臨床経過などの病歴に加えて、X線・内視鏡検査などの画像診断、病理所見から総合的に臨床診断します。そのため炎症性腸疾患の診断には豊富な症例経験が必要なのです。

え～ステロイド飲まないといけないんですか？（潰瘍性大腸炎）

中等度以上の重症度の潰瘍性大腸炎の活動期ではやはりステロイドは必要です。十分な初期量ではじめて速やかに量を減らします。初期ステロイド量が少ないと、ステロイドの治療効果が不十分となり長期間のステロイド治療が必要となることがあります。「十分な初期量ではじめて速やかに量を減らす」、こうすることで結局ステロイドの総投与量を減らすことができるのです。

ステロイド使用を減らせることがあるので、白血球除去療法（GCAP、LCAP）も積極的に行っています。またステロイド抵抗例（ステロイドが効きにくい症例）、ステロイド依存例（ステロイドを中止することができない症例）では免疫抑制剤を使用しています。

豊富なレミケードの使用経験があります（クローン病）

レミケードは、既存治療で十分な治療効果が得られないクローン病患者さんに対して高い改善効果が期待できる薬剤です。過度に生産され、炎症に直接関与しているサイトカインに作用する薬剤です。今まで治療が困難であった外瘻に対しても高い効果が期待できます。

当科ではこのレミケードを積極的に使用し良好な治療効果を得ています。当科は、北九州圏で最も豊富なクローン病に対するレミケードの使用経験を有する施設の一つです。

栄養療法がとても辛いのですが、、、(クローン病)

クローン病患者さんのこのような声をよく聞きます。クローン病においては栄養療法が奏効することが多く、しかも副作用がほとんどないのですばらしい治療法の一つであることは間違いありません。しかし治療期間が長期に及ぶことが多いため、患者さんの基本的欲求である「食のよろこび」を阻害することがないように注意することも必要です。

当科では、患者さんの学業、仕事内容などを考慮して患者さんと意見交換しながら栄養療法をすすめています。

文責 芳川一郎